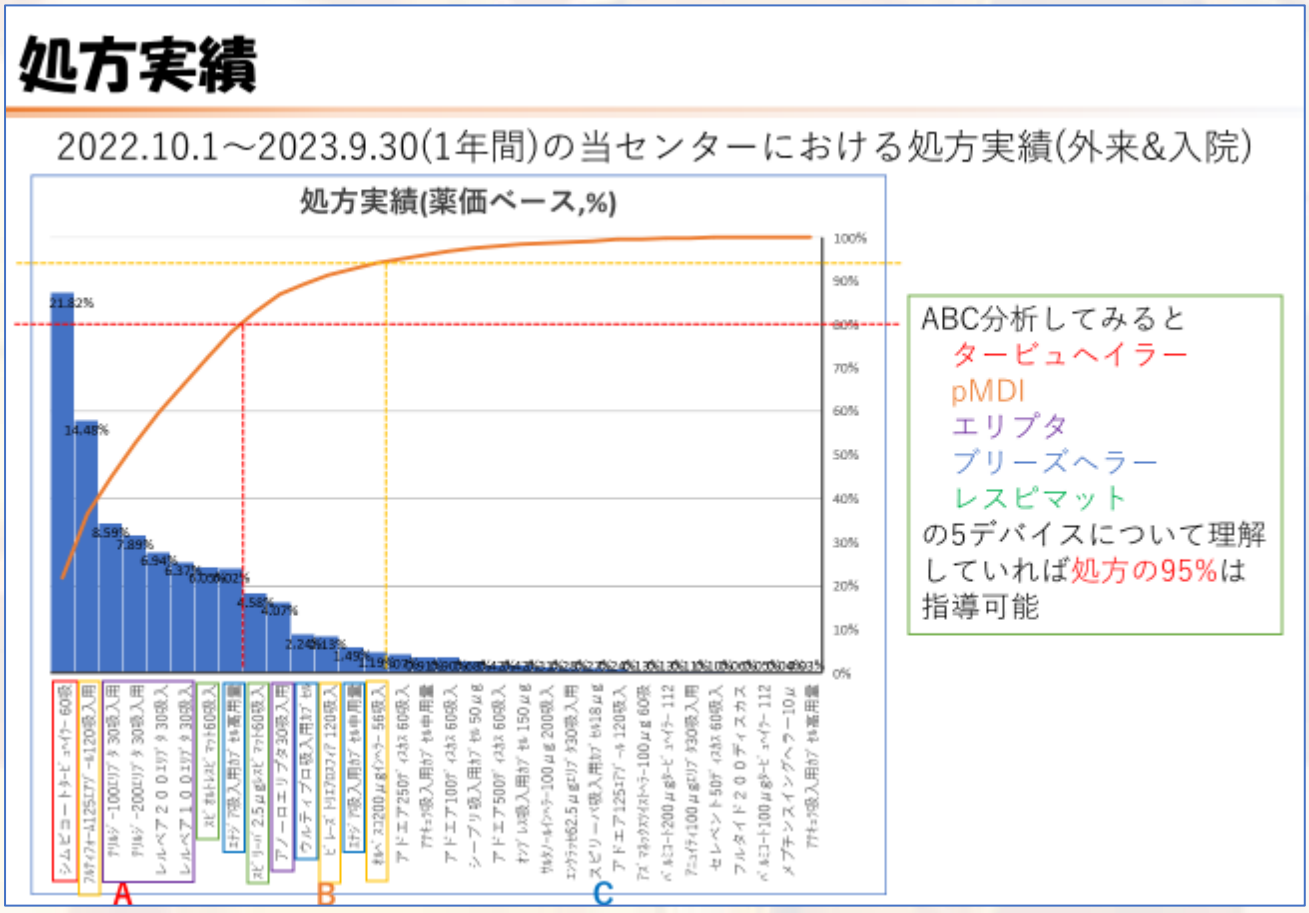
23/10/31

どのデバイスから学ぶか？
～当院の近年の処方動向から～

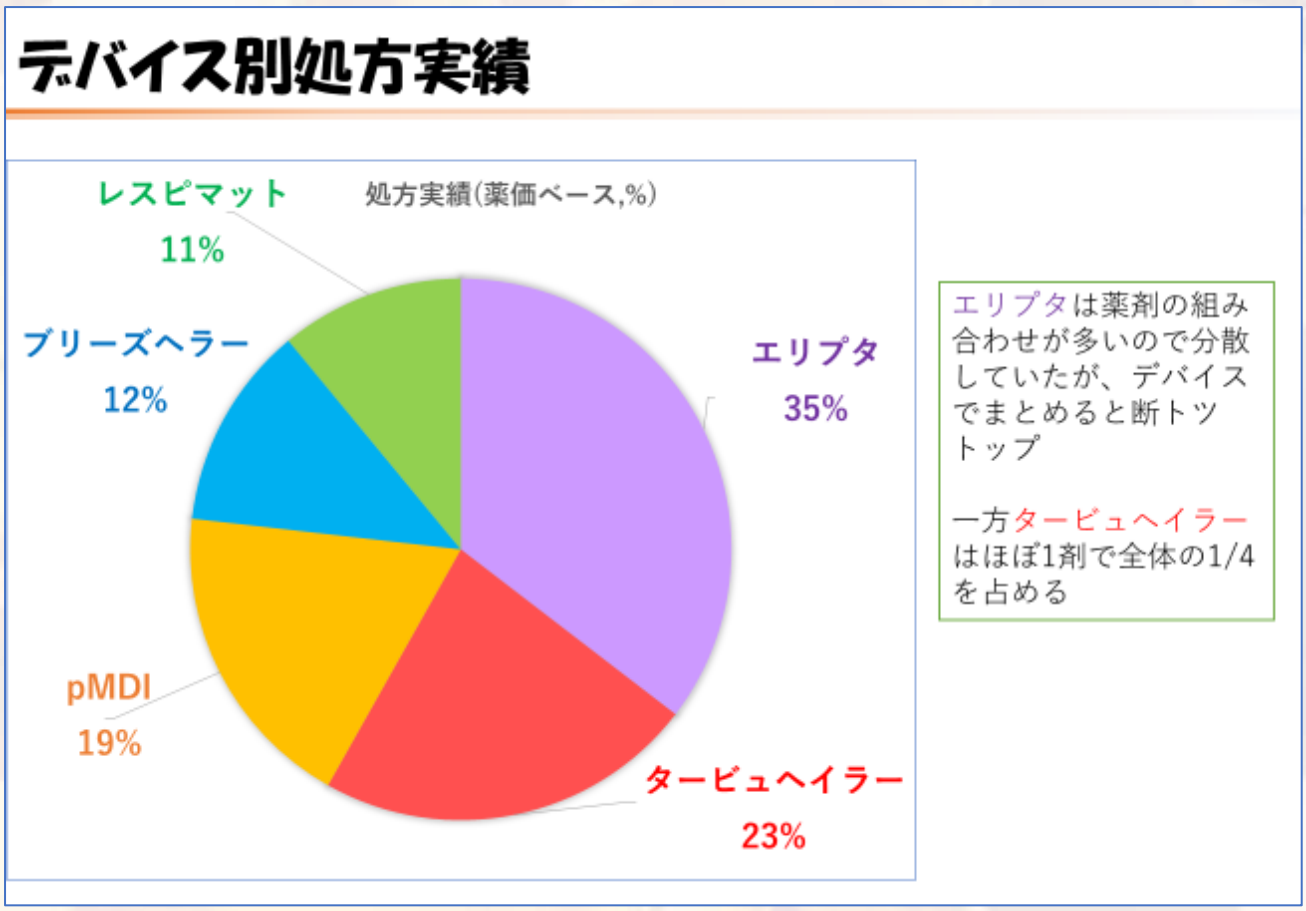
コロナ禍も一段落し、吸入指導も感染対策で難しかったのが徐々に普通の指導ができるようになってきていると思います。

コロナ禍中にも喘息や COPD のガイドラインは改訂され、新薬も登場していましたが、実地の講習会がなかなか開催できなかったこともあり、近年臨床に入った薬剤師には沢山のデバイスに囲まれてどのデバイスから学べばいいか悩んでしまうこともあると思います。

今回は先日開催された第 17 回北埼玉吸入療法連携会勉強会より、循呼センターでここ 1 年に処方された実績から、どのデバイスから学んでおけば、現場で焦らずに済むか解説していきたいと思います。



処方実績を ABC 分析してみると、A,B ランクで 5 つのデバイスが該当しました。タービュヘイラー、pMDI、エリプタ、レスピマット、ブリーズヘラーの 5 デバイスで処方実績の実に 95%を占めているので、これら 5 デバイスの指導について理解していればほとんどの処方に対応できることになります。



最初の表は吸入薬ごとの実績でしたが、デバイスごとにまとめると順位が変わります。エリプタはレルベア、テリルジーを始め多数の薬剤の組み合わせがあるので、デバイスとしてまとめると実にシェアの 35%を占めていました。タービュヘイラーは実質シムビコート単剤ですがそれでも 23%と大きなシェアがあります。

考察

- トリプル製剤をラインナップに持つデバイスの処方が増えている
- 単剤はスピリーバ・レスピマット以外の処方は限定的
- 以前３成分併用で繁用されていたシムビコート＋スピリーバ・レスピマットの２剤処方を続けている外来患者が少なくない
  →緊急入院などを契機に吸入手技確認が入り、トリプル製剤に変更される可能性がある

このデバイスから学ぼう

エリプタ

ターヒュヘイラー

pMDI

レスピマット

ブリーズヘラー

新規処方の対応としてはトリプル製剤を持つデバイスが重要
ただし
シムビコート＋スピリーバ併用処方を続けている患者は少なくなく、
この２デバイスは手技ミスも多いデバイスのため
そのフォローアップとして
これらのデバイスの手技指導にも習熟しておく必要がある

5デバイスの優先順位ですが、エリプタ、ブリーズヘラー、pMDIはトリプル製剤をラインナップに持ち、新規処方が多いデバイスです。指導も比較的簡単なので、初学者はまずこの3デバイスを学ぶのがよいでしょう。入院患者の持参薬の傾向からも、呼吸器を専門としない病院/診療所での新規処方はこれら3デバイスにほぼ集約されている印象です(たまにレスピマット)。

タービュヘイラーとレスピマットは以前からの継続処方が多いですが、一時代を築いた組み合わせでシェアも大きいため、継続指導で遭遇する機会が多いデバイスです。また、シムビコートはSMART療法があり、レスピマットは他とは全く違う吸入感覚をもつため、当院のような呼吸器内科専門医からは新規処方もあります。

ただ吸入手技の難易度として1番、2番目に難しいデバイスであるので、初学者は先の3デバイスをまず学び、その後シムビコート、レスピマットのピットフォールを理解して、指導に入れるようになる順番がよいと思います。

（文　埼玉県立循環器・呼吸器病センター　薬剤部　杉田英章）